

# CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 17/Mar/2025/vol.821

## 中国産 長ねぎ Japanese leek "Naganegi" imported from China

世界的な異常気象がここ数年伝えられております。日本も例外なく、豪雨や早魃、異常低温や異常高温などに苛まれており、国産野菜も自然の猛威にはなす術がないのが現状です。しかしそんな中、注目されるのが輸入の野菜です。日本では現在圧倒的トップが中国からで、輸入野菜の 52%ほどを占めているといわれています。中国の食の安全については、日本ではかなり懐疑的に思う人も多いのは事実、何十年も昔から取りざたされてきた大気汚染や、水質の悪化、残留農薬の問題、堆肥の問題などが挙げられるでしょう。しかしその後、日本を含めた海外企業によって、中国へ「有機農法」への参入がなされ、中国は当初それほど興味を示していなかったにもかかわらず、今では国を挙げての取り組みになっているのをご存知でしょうか。きっかけは急速に発展した食の国際化、国内需要と富裕層の増加と共に「食」に対する安全性が問われてきており、特に国内とは 2 極化させて海外への輸出ビジネスチャンスとして徹底させてきたことあって「中国の有機農業」はかなりの変貌を遂げております。中国の有機農産物の栽培農地面積は 290 万ヘクタールで世界第 4 位(2022 年)、トレーサビリティも確保されており、残留農薬検査や農業自体への法整備、そして特にコロナ禍において、何よりも安心安全な食生活が「健康」を運ぶと注意も向けられたことから国内の消費者需要の高まりもその一端となったようです。今年も先だって気候に関する予報が様々アナウンスされております。ここ最近も国内野菜は不安定な状況となっている事実、その様な背景も踏まえて、徐々にでも中国産に対する意識も変えてゆく必要があるのかも知れません。